

圓福寺報

圓福寺報 第六十二号
 平成二十五年一月一日発行
 発行者 臨濟宗妙心寺派 圓福寺
 千葉市稲毛区穴川町三七五 Ⅱ (二五二) 九一八一
<http://www.chiba-enpukuji.com>
 E-mail: oshou@chiba-enpukuji.com

謹賀新年

平成二十五年 元旦



目次

寺説「施生」	12
年頭法話	
「蛇 故皮 脱 如」	11
竜波禅士入寺式	
二順目第十回	
「四国歩 遍路 旅」	
台 塩月 高泰	
園生町 田中 脩一	
第十一回四国 遍路 案内	11
第二十一回圓福寺寺子屋	
「禅 童 会」	12
続 寺 半里	
町 探索	
園生町 熊倉 浩	14
穴川花園幼稚園 園	
「土砂降 土」	15
土曜会 写経会 茶禅会	
第三十五回花園会 大会	16
境内墓地 案内	17
市原別院	
—— 山野僧雜記	17
平成二十五年年忌表 日録抄	18
平成二十五年行事予定	19
花園会新年会 案内	20

干支色紙：星久喜町吉田和子さん作

寺 説

施しを生かして・・・。

昨年十月十日、以前なら体育の日というところだが、圓福寺では新しいお弟子さんの入寺式を行った。(詳細は七ページ)

私が圓福寺に入寺したのは昭和六十二年だから、ちょうど四半世紀を迎えたことになる。といって、振り返って感傷に浸るつもりはさらさらない。

入寺した時の圓福寺は、本堂の前は全面コンクリートで覆われていた。本堂の西半分は幼稚園の事務所と物置が占めていた。梁の落ちた内陣の天井、もちろん書院なんてあるはずもなく、草茫々の空き地だった。お寺の駐車場となっている場所には、長屋があつて、八百屋さんとパーマ屋さんが入つていた。駐車場ぐらゐなくては何日、店子が立ち退いた後、何日も何日も解体作業に明け暮れたこともあつた。危ない！、危ない！素人の解体作業のことではなく、感傷に流れそうな文になつてきた。

四半世紀たつてのことはみなさんご

存知の通りなので省くとして、入寺したお弟子さんには、いずれ市原別院「耕雲寺」を任せたいと思つている。

とはいえ、名ばかりの耕雲寺。私が入寺した時の圓福寺の方がまだましと言わざるを得ない。

「別院の方は本堂ができたのですか？」なんて聞かれることがあるが、決まって「先立つものがないですから・・・。」と答えている。なにしろ、檀家さんのもとより信者さんもまだないのだから・・・、先立つものはこのことなのだ。

大震災の後、エネルギーのことを考えたり、幼稚園児が火のありがたさや怖さを知らないことに気づいて、幼稚園に薪ストーブを設置した。薪なら市原の雑木林で調達できると思つたのだが、薪割りをして一年半から二年は乾燥させないと使えないと知り、解体業者さんに頼んで廃材をいただくことにした。あつという間に山と積んでくれた。

廃材とはいえ、素人目にはまだまだ使える材木に見え、これを使ってプレハブ本堂の中に、坐禅をする「単」という小上がりのようなものを作ることにした。

釘を抜き、丸のこで製材したり、電気カンナを掛けたりしながら思った。今でも東南アジアの僧侶は托鉢をしながら、人々の施しで生きていく。日本の修行道場でも、托鉢は欠かせない修行になつていく。私が釘を抜いたり、カンナをかけている材木も、言つてみれば「施し」である。袈裟がつぎはぎなのも、施しの布を縫い合わせたことによるのだ。そして、中国で迫害された時期に、僧侶たちは山の中に隠れ住んで仏教を守つた。そして、自給自足を余儀なくされ、禅宗では作務(さむ)という労働の中にも修行の意義を見出した。

施しの廃材を作務(さむ)で加工して坐禅堂にしようというのは、なんて仏教的、なんて禅的なのか。えーい、いつそのこと廃材で伽藍を作ろうか；決してやけで言つていゝのではない、その方が仏教的ではないだろうか。

廃材でできた坐禅堂で坐禅をするところが、耕雲寺のお寺としての活動の始まりとなる。さて、四半世紀後、どうなつていゝだろうか。

蛇故皮脫

如



「龍作つ 天上、蛇作つ
草入。」
禪語、今年、昨年干
支「龍」、今年、巳年
、天上、今年地足
生活、言つ、蛇足
巳(蛇)足
、地道生活送思

好、嫌、使、事、財布、大事、金貯、
「蛇足」、余計物
「竜頭蛇尾」
好、嫌、使、事、財布、大事、金貯、
「蛇足」、余計物
「竜頭蛇尾」



人、稱「錢神」、
神樣化身、言つ、白
地方、家守神、言つ、良意
味、使、一寸、人吞
「梅檀」
双葉、芳、同意味
番組、紹介、店、行列
長蛇、我、我、並、好
長蛇、自分、美味、一部
逸、長蛇、よ、





仏教
 仏像 閑 見
 、 不動 代表
 明王 中 「軍荼利明王」
 、 体 十二匹
 煩惱 障害 取 除 働
 煩惱 障害 表
 よ。 中
 探 、 「五欲 人 害 中
 惡蛇 踏 如。」「五
 欲 七步蛇。」 (七步蛇、

死 七步歩 間 持つ
 淨、人間 惡 欲望 煩惱 不
 惡 意味 使
 多 財布 同
 脱皮 境界
 迷 境
 目 っ、
 棄捨 涅槃 入、
 蛇 故皮 脱 如。」「
 、「蛇 古皮 脱 煩
 。」 迷 脱
 説明 使
 悩。 煩
 ※涅槃・・迷い、煩惱、苦し
 みが消えた状態のこと。

脱皮||修正
 新年 迎、寺「
 修正会」 祈禱 三 日
 間 営。 昨年 惡 心
 修正、今年一年無事 過
 祈禱

大般若經 讀 祈禱
 大般若經 祈禱
 「大般若札」 祈禱
 徒 皆様 手元 届、檀信
 大般若祈禱、大声
 「ヨ ヨ ユー」 唱
 漢字、 「降伏一切
 大魔最勝成就」。一切 惡
 原因 降伏 心
 清 晴 願 込 心
 惡 心 原因
 私 欲望 降伏
 降伏 祈禱 強



質至上、
目標人多
崩壊
求
気

蛇足知如

蛇足知如

可能、修正

「脱皮」考

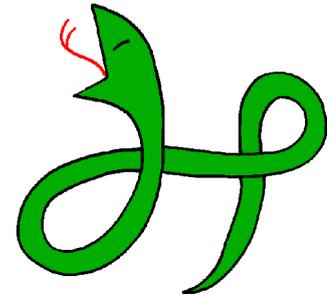
良方法

欲体表面出

時、「欲皮突つ張つ

現実味帯

人欲張



換
欲望、
自置

言方、
調伏



人欲、個性時代
丸呑み、自分、大物
手入、関節

昔、蛇姿見盃酒

蛇影見極

私物、心底足知
時代脱皮

決知物、豊富
満足、

本当無駄、心底、蛇足

争、足、水面泳
中国故事、早進

「知人如。」
足語源、送、絵描競
蛇足

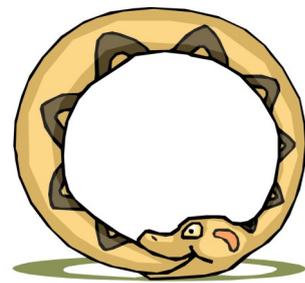
飲 蛇 飲 重 病 っ 人 映 っ
 壁 掛 っ 弓 絵 映 っ
 分 っ 病
 治 っ 故 事 、「 杯 中 」、
 「 蛇 影 」、 周 人 持 っ 生
 自 分 持 っ 不 安
 惱 氣 持 っ 私
 求 物 質
 「 杯 中 蛇 影 」、 「 智 人 」、
 智 知 、「 迷 」、 境 界 棄
 已 年 今 年 、「 迷 」、 境 界 棄
 捨 涅 槃 入 、「 猶 蛇 」、 古
 故 皮 脱 如 、「 古 」、 古
 価 値 観 脱 、「 輕 」、 生
 蛇 登 場
 、「 蛇 心 仏 口 」、
 話

※蛇心仏口・・・陰険な心を持
 ちながら、口先ばかり親
 切らしくすること。

巳年

言葉

「龍作っ 天上、蛇作っ 草入。」
 「蛇蝎 嫌。」
 「竜頭蛇尾」
 「蛇足」
 「一寸 人吞」
 「長蛇 逸」
 「五欲 人害」 悪蛇 踏 如。
 「五欲 七步蛇。」
 「迷 境界 棄捨 涅槃 入 、「 蛇 」、 蛇
 如。」
 「蛇 古 皮 脱 如。」
 「智人 智知。 蛇 蛇足 知 如。」
 「杯中 蛇影」
 「蛇心仏口」



悲 っ 、「 今 年 一 年 」、
 慈 楽 巳 年

竜波禅士入寺式

平成二十四年十月十日

平成二十四年十月十日、竜波
禅士 入寺式 執行

。徒弟 籍置、南禅
寺派西山寺、圓福寺 僧籍
移 っ、師父

西山寺住職、部内 法
縁 和尚様方 臨席、圓
福寺檀信徒 代表 役員、花
園会女性部 方 参列

式、穴川花園幼稚園園児代
表 献灯献花
本尊様 開山様 歴代 和
尚様 対 献香 五体



園児による献灯



投地 礼拝、圓福寺 守護
諸仏諸天 対 参 行
、引続 法類総代樹林寺様
挨拶 住職 謝辞、続
本堂内、祝斎 設、入寺
式円成
今後、僧
籍 妙心寺
派 転派
手続 完了
後、
法階
（坊



五体投地の礼拝をする。



今回の遍路に同行した竜波禅士
八坂寺本堂前にて

（位）取得、妙心寺派 法脈
継承 式（垂示式） 本山
行つ、圓福寺

副住職 就任 予定
市原別院

「耕雲寺」担当 副住職
、耕雲寺 護持、
教化活動等 務

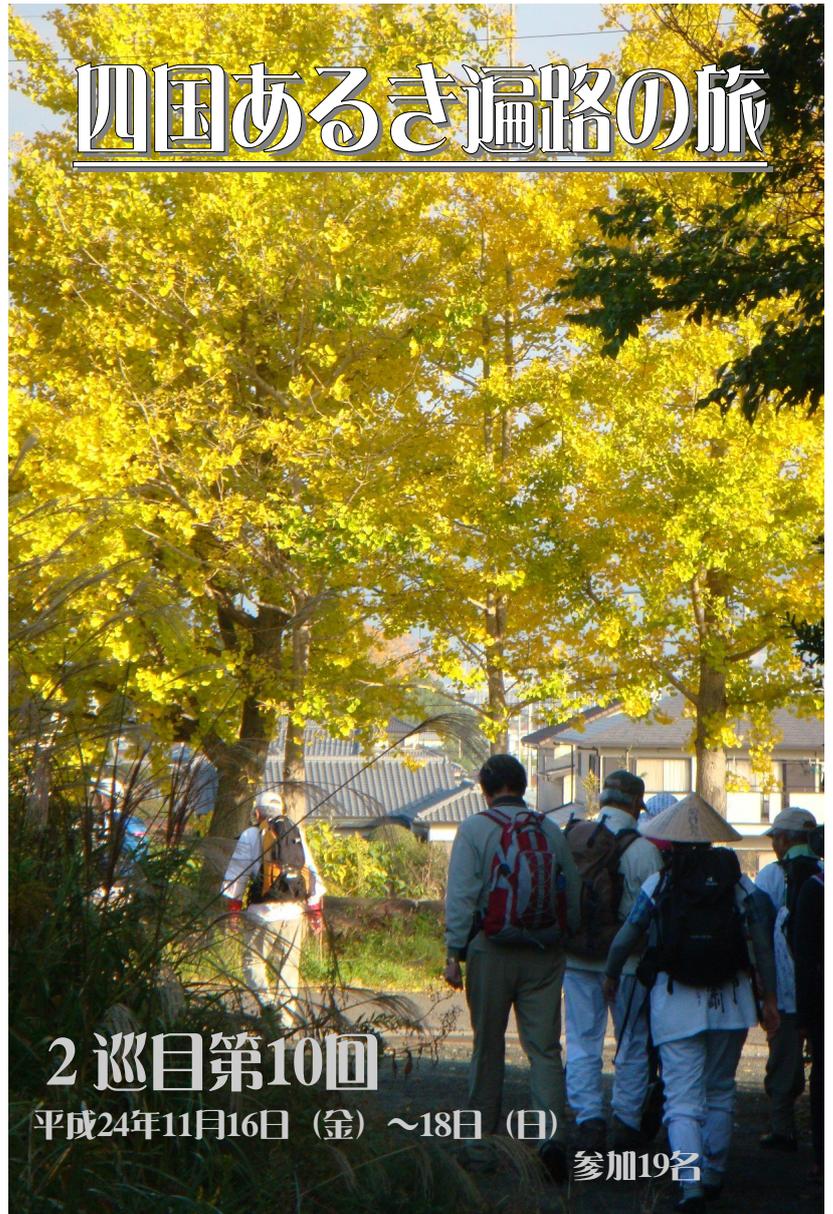
略儀、紙面
報告申上
、法類総代 樹林寺様
挨拶

若輩未熟者
引回
、檀信徒
願申上
皆様

平成十七年三月一日、松山、第五十一番札所石手寺、始、四国遍路、平成二十四年十月



「 迎 月 塩 台 高 泰 」



2 巡目第10回 平成24年11月16日(金)~18日(日)

参加19名

願 一月十八日 石手寺 到着 無事結
一巡目 第八回 参加
年 新年会 席、始 動機、十七
道後温泉 誘、安易、氣
持 参加
伊予 菩薩 道場 言、
所 行 不謹慎極

初日 熱出、同行 武
面倒 湯 浦温泉 模
様 っ、三日目
、風邪気味 体 本當
思 足裏 豆、宿
着 看護 梁川、
広渡 夫妻 度 迷惑、
満願 大、大 助
一巡目 第十回 雲辺寺
。徳島 電車 乗 継
登、少平 所 歩
道。標高八百五十 強。 登
坂。後 向 歩 思 っ 当 然 下
向 歩 歩 楽 言、後
藪 中 転、道 外 失 笑 買
生 初孫「大晴」、平成十六年
七十五番善通寺 救急車 土産、
買、千葉 売 っ や
今、小学 二年生、来 孫 公 園
ッ、一 相手 土 産
路 回数 重、孫 成 長 遍
香川 入 っ、八十六番志度寺

「栄荘」近 「観光
湯」超 銭
湯。私 言
感、間違 時代
二巡目 始、平
成二十年二月
第二回目 二日目、
四国遍路 昔「一
焼山、二 鶴（鶴林
寺）、三 太龍寺。」
言 難所焼山寺
步。八時半 十
一番藤井寺 出発、途
中「柳水庵」 昼食。
一本杉庵 下坂
足取、左肩
転、肩 強打。「足
良 思
。焼山寺 午後三時着。男性 宿坊
二階 大広間。入浴前、持参
小瓶 車座 分
祝杯。 祝杯、小生、浴
衣 左腕 吊つ、
つ。三日目、第二 第三 難
所、鶴林寺 太龍寺、今度
。 参 濟

第四回 徳島最後 二ヶ寺 室戸周
辺。最終日 津照寺 金剛頂寺 参



今回二日目の出発は、「雨」
大宝寺の宿坊前で

、空つ
第八回、延光寺 参
檀家 沖山 故郷「柏島」 和泉
屋旅館 移動。到着 時
草餅 格別 子
頃、祖母 作つ
思 出、柏島 海 向
故郷 蒲江 望郷 念 驅、
食 海 幸 望郷 念 驅、
上、沖山 差 入、全員

拝。津照寺 海守 神
浦江 甥 札
送つ。
第五回、高知龍馬空港
降 雨。乗車
途中 下
濡、雨具 出間
出、雨具 出間
つ。下車 安田 駅
雨 止、神峰 寺
大雨、宿泊地 安芸
大雨、第五回 雨
思 出
第七回 一日目 岩本
寺宿坊、甕 入つ
焼酎 接待
驚 始末 っ

角巾 右手
吊つ 歩
ユツ 広
渡 主
人 持つ
、
大宝寺
本 当 人 面

「伊勢」大 一尾 接待
接待
初、皆、感謝感激 第
八回「柏島 伊勢 遍路」名
付 思
第九回 三日目 大洲、和尚
父親 小僧 如法寺
参、弘法大師 巡錫中 野宿
言 「十夜ヶ橋」 橋 下
参、内子 歩 遅 昼
食。「 店
鯛、空腹 本 当 美 味 っ
第十回、満願 石手寺 迎
。内子 下板場峠 越 下
坂、足 滑、杖 後
取、右 附 根 傷
つ。途中、広渡夫妻 梁川
手 当



大宝寺への遍路道で転び、三角巾姿になる。



雨の中、四十五番札所岩屋寺を

倒掛 老人、自分情
 思 大宝寺 出発 時、雨。
 岩屋寺 本降 祝 晴天
 最終日、私満願 祝 晴天
 願迎 上札所 次 次 満
 氣持 高

七年 五十一番石手寺。足掛
 満願。七年前、石
 手寺 袋 納経帳 買、八十
 八所 巡礼、納経帳 朱印 全
 部埋 思、家用意 「萬願」
 写真 思、家用意 「萬願」
 書 出 違 言、和尙
 後 最後 大恥 修行 思

私、和尚 緻密計
 画 同伴者皆様 心 「満願」
 、心 感謝。来年
 傘寿八十歳 迎。人生区切
 時、四国八十八所歩 遍路 満
 願迎 良 思 歩
 最後 二巡目 本
 皆様 満願 祈つ

初遍路

園生町 田中 脩一

「会社 以前 四国遍路、
 既 会社 「以前 思つ、
 友人 色 情報 仕入
 和尚、十一月 圓福寺恒例
 四国遍路、思
 「手 拳 次第 思
 今回 遍路、二泊
 三日 短期間 中 天
 候(晴 本降
 雨)、宿泊先(宿坊
 旅館)、行程(足慣
 十 登 下
 二十四 市街地



遍路道の道しるへ

十) 要素 凝 全
 縮、遍路
 入門編 最高 体験
 出来 一日目
 晴。十程度
 足慣。宿坊。夕食
 宿泊 大寶寺
 後 自室 頂 酒



宿での楽しみ

願 様 物 行 無、断念。翌
 食堂 願 様 物 行 無、断念。翌
 朝、本堂 「遍路 行、其
 尚様 「遍路 行、其
 理解 話、昨夜 遍路 多「件
 納得。二日目 雨。朝 小雨 昼過
 本降。中 登 下 二十
 四 長丁場。昼食 岩谷寺 境内
 雨宿、立つ 雨具 下 汗 濡、
 頬張 終了。雨具 冷 長 休憩
 身体 動 状態。濡 身体
 取 乗車 日頃 経験 宿、濡
 数。宿泊 出来、勿論
 衣服 靴 手入



四十六番札所浄瑠璃寺の門前で。

心配 無 一安心。
 三日目 最終日 晴天。平坦 舗装
 道路 約十。終着地点 道後温泉
 汗流、地 | 飲 至福時
 間。最終日 晴 温泉 入、濡
 身体 飛行機乗 事 感謝。
 ≪参加 良 っ ≫

圓福寺 和尚様 一緒 回 贅
 沢 「正調四国 遍路」 体験
 本格的 登山 経験 六十
 五歳 体力 通用 見極
 、意識 歩 足 豆
 下道 足 疲労、日常生
 活 分 弱点 欠点
 足腰 大丈夫 自信 持
 百聞 一見 如。道標
 街地 道路。実際 歩 見 市
 分 道路事情。時間 惜
 分 足 頼 一 遍
 路」 如何 大変 事
 良 分
 「四国 遍路」 興味
 持 方、是非一度、参
 加 如何 よ。新参
 者 最後 受 入 下
 優 優 和尚様 皆様
 感謝 申上。

※字が小さくて申し訳ありません。な
 お、文中の写真は今回、二巡目第十回
 のものです。

第11回

参加者募集

2巡目

四国あるき遍路の旅

約20名

二巡目第十一回の参加者を募集いたします。
 十一回目は、松山から瀬戸内海沿いを巡ります。十一から十二か所の札所をお参り予定です。

【日程】二月二十二日(金)
 ～二十四日(日)

【旅程】

【第1日】 松山空港からバス・電車で移動後、五十二番・五十三番。再び電車で移動して、五十四番・五十五番、五十六番の宿坊で宿泊予定。歩く距離は約10km。

【第2日】 五十七番・五十八番・五十九番と歩き、六十番横峰寺の麓で温泉泊。歩く距離は約22km。

【第3日】 難所横峰寺へ登り、「遍路ころがし」を下りて六十一番香園寺。六十二番までお参りして、伊予小松から松山、松山空港から帰路。歩く距離は20kmぐらい。

【参加費】 五万円前後

【申込】 お電話・ファックス・メールなどで、お寺までお申込下さい。

第20回

圓福寺寺子屋



坐禅

禅童会



平成24年7月21日(土)~22日(日)

ぜんでら く ね すわ
禅寺で、「食う・寝る・坐って」なにを感じたか？

「前の私そして今の私」

千草台小6年 永井 ゆり

この二日間、とてもきつかった。中でも私が一番「きつい」と感じたのは、「食事」だ。ふだんは食べただけ食べ、そして食べたくない物は残す、その事を何も不思議に思わなかった自分が今はおそろしい。



今回の禅童会でやった食事のルール、すべて家で同じ事をやるのはむずかしい。でも、やれることもある。残さず食べる事、食事を材料を作ってくれた人に感謝する事、そして、命を食べているという事を心におき食べる事。それしかない。でも私はそんなにあるかもしれない。「でも私はそんなにある。」と思う。今までできていなかった大切なルールがこんなにあるとは思わなかった。大切なルールを守って食べる事のできる事は、無いと思う。でも、それができなくなった現代の人達は、思いやりや、本当のやさしさが欠け、そして

禅の食事作法



いのちを大切に禅寺の食事作法で、ごはんをいただく。正座で、しゃべらない・音をたてない・残さないなどのルールがありました。

がまんする事が、できなくなっている。それは地球温暖化を進めたり、絶滅しそうな動物を増やす大きなきっかけをつくっている。「このままでいいのかわ。」それは誰もが思っていると思う。しかし、行動に移せない。今までは私もそうだった。けれども、今はちがう。この禅童会で学んだ。このことを、たくさんの人に教え、今の地球の危機を少しでも直したい。だから、私は、がまん強く、思いやりのあるすばらしい人でありたいと思う。

禪童会スナック

しず すわ
静かに坐ってい
どろみず す
ると、泥水が澄ん
でくるように、こ
ころも澄んでくる
んだなあ。



いけ みずおと とり
池の水音も、鳥の
こえ ちらが
声も、いつもと違っ
て、新鮮しんせんに聞きこえる
んだなあ。



坐禅の前に、真向法体操でストレッチ



うどん作り

生地(きじ)をのばして薄くして、折りたたんで包丁(ほうちよう)で切ったら、なんと！うどんらしくなった。



ぼくは、どっちに行ったらいいんだろう？



スイカ割り



TTC48で〜す。(TTC:「たねとばし隊」の略)



最後に、自分たちが使った場所を、きれいに掃除しました。ごくろうさまでした。



運動会より真剣な顔

続 寺 半里 ()

町 探索 () 園生町 熊倉 浩

穴川風土記

圓福寺前 道路 国道16
 寺出、右二
 百行 字路角 昔道祖
 神社 称 穴川神社 何
 時頃 創建 知 市内三
 道祖神 一 此処
 一帶 栄 証拠
 他 二社 道 真直
 南下 千葉寺 中村病院下
 国道三五七号 (旧房総往還) 沿
 新田町 理解
 南北 走 県道72号 (穴川天戸
 線) 古代 東海道 比定
 現在 道路
 沿つ 考
 頃 東海道 三浦半島
 馳水 (走水) 海上 渡 房総
 半島 上陸 上陸地 天羽



※今号をブログとして、次号より連載させてい
 いただきますので、お楽しみに。

(9月の「園だより」から)
土砂降りは土にしみじみします

長い夏休みが終わりました。酷暑と言われた夏ですが、九月に入っても残暑が厳しいとのこと。暑さばかりでなく、水不足も言われ始めました。首都圏の水がめと言われる八木沢ダム貯水率が6%だと報道されていました。

それでも畑の雑草たちはたくましく育ちます。先日Q園隊で、雑草たちと熱闘・格闘したみなさんは、本当にお疲れ様でした。

畑の作物にはそろそろ雨が必要だと思っていたら、ここ2、3日は、スコールのような雨が降っています。これで花壇や畑は水やりをしなくていいかという大間違い！ スコールのような雨が降った後に土を掘ってみてく



ださい。中の土はカラカラのままです。逆にスコールのような土砂降りは、表面の土を流してしまします。

畑の作物や庭の草花にとっての恵みの雨は、なんととってもしとしとと降る雨です。日照りの時に植え木に水をやる時は、ホースからタラタラと水を出して、時間をかけてしみこませるといいと、以前、植木屋さんに教えてもらったことがあります。しっかりと土にしみこんだ水は、根からゆっくりと吸収されていくのです。

草取りをしながら、土砂降り、しとしとと降る雨のことを考えていたら、土砂降りはガミガミと叱っているお母さんの声に聞こえてきました。しとしとと降る雨は、おばあちゃんのやさしいさとし方に思えてきました。

普段からのしつけや接し方が大切なのに、急にガミガミ叱っても、それは土砂降りと同じで



子ども心にはしみこんでいかないのかも。逆に、子どもの自ら成長してきた部分を、土砂降りのように流してしまうかもしれない。

普段は親がいろいろ手を出してやってしまっているのに、急に一人でやれと言うのも、なか千天の土砂降りに似ている。

やはり大切なのは、草花に恵みの雨と言われるしとしと降る雨のような、日ごろの小さな子育ての積み重ねだと思おう。上っ面が濡れたから、それで水やりが終わりと思うような子育てはして欲しくないなと草取りをしながら思った。

草取りを終えて帰ってきたら、急に雷が鳴り響いた。もちろん、子育てもいつも優しくばかりはられない。時には、天地に響き渡るような雷も必要だ。

土曜会

この集まりは、圓福寺にご縁のある人が、各種体験などをしながら懇親・談笑する自由空間です。たくさんの方の縁が広がります。

【期日】

- 一月二十日(日) 花園会新年会
- 二月十六日 仏教シアター
- 三月(未定) 法話会
- 四月二十日 歩禅会

新緑の養老溪谷(予定)
市原ボランテラ

- 五月十八日 歩禅会
- 六月十五(十六日) 歩禅会

新潟・湯沢方面(予定)

- 七月二十日・二十一日

禅童会お手伝い

- 八月二十四日 地藏盆お手伝い

【会費】テーマイベントの後、懇親会

- 花園会員 男性 二千元
- 女性 千円
- 花園会員外 男性 三千元
- 女性 千円

【申込】

詳細は、行事ごとにご案内いたしますので、奮ってご参加ください。

写経会

般若心経を写経いたします。大きな字でお手本が印刷された、とても書きやすい写経用紙を使用しています。お道具の準備から毛筆の基礎なども親切にご指導いたします。

【前期期日】

- 二月三日 六月三十日
- 三月三日 八月四日
- 四月七日 九月一日
- 五月十二日 十月六日
- 六月二日 十一月三日

【後期期日】

【時間】

午前十時～十二時

【会費】

一期五回で、花園会員三千元
会員外 五千元

【講師】

斉藤 加代子先生・住職

【用意するもの】

小筆、硯、墨、半紙

【定員】

二十名

【申込】

お寺までご連絡ください。



茶禅会

日本の茶道は深く臨済宗の教えを随所に体現しております。「わかりやすい」をモットーに、基本を大切にしながら茶禅会を目指します。ウン十の手習いでも構いません、お寺で茶道に親しんでくださる皆様のご参加をお待ちしております。

【日時】

毎月第二・第四火曜日午後一時半～

【会費】

月二千元

【講師】

圓福寺寺庭 宮田 宗尚

【服装】

白い靴下(それ以外は自由。)

【用意するもの】

裏千家用の扇子・帛紗・懐紙
(茶禅会で購入することもできます。)

【定員】

五～六名

【申込】

お寺までご連絡ください。
ご不明な点など、何なりとお寺までお問合せください。





第35回花園会ゴルフ大会

10月26日 於：源氏山ゴルフクラブ

第三十五回 大会
 十月二十六日 市原
 別院 隣接 源氏山
 催 震災開
 以来、ヤイ。震災開
 開催 定着
 、賞品 返上
 ヤイ 参加
 者、女性三名 参加
 十九名、成績 表
 通。成績 表
 参加者
 罰金 併
 育英会
 東日本大震
 災津波遺児
 募金、四
 万四千円募
 金。

順位		グロス	ハンディ	ネット
優勝	常世田 政信	89	16.8	72.2
準優勝	矢野 弘明	95	22.8	72.2
3位	武 光俊	100	27.6	72.4
4位	小山 稔	100	26.4	73.6
5位	杉本 朝春	87	13.2	73.8

□□境内墓地のご案内

境内の墓地に空きができましたので、ご希望される方がいらっしゃいましたらお申し込みください。

- ◇募集期間・・・先着順
- ◇募集区画・・・二区画
- ◇区画面積・・・
奥行85cm×幅90cm
- ◇永代使用料・・・百万円
- ◇応募資格・・・
圓福寺の檀徒となること。
(過去の宗旨・宗派は問いません。)
- ◇建墓条件・・・
丘カロート式です。
墓石については特に
条件はありません。

いつでもご自由にご見学ください。また、ご不明な点はお寺までお問い合わせください。



市原別院

山野僧雑誌

春、さつま芋の苗を植えるや、イノシシに苗をほじくり返しされ、あわてて畑の周りに柵を作り始めた。その間もイノシシが出現し、畑を荒らされる。

結局、イノシシ防壁の柵ができた頃には、さつま芋は壊滅状態の様相を呈し、案の定、収穫祭ではほぼ収穫ゼロだった。

自然保護とか、野生動物保護とかで、イノシシの捕獲もままならないのだらうか、猟友会の世代交代も進まないと思つていたら、イノシシにも放射能の蓄積が判明し、捕獲しても食べる人がいないのだという。

こんなところはまだ福島原発事故の影響がでているのかと、驚かされた。

幸いに、畑やさつま芋から放射能は検出されていないので、胸をなでおろしている。今年も柵も張り巡らし、イノシシとの住み分けもできそうなので、子どもたちに持ち切れないほどのさつま芋を掘らせてあげたい。収穫祭も、名前通りになることを願っている。

平成25年年忌表

法要 会場
使用 。、
椅子席 。、
、法要後 膳 安心下 方
、気軽 相談 用意 。
本堂

百回忌	五十回忌	三十三回忌	二十七回忌	二十三回忌	十七回忌	十三回忌	七回忌	三回忌	一周忌	回忌
大正三年	昭和三十九年	昭和五十六年	昭和六十二年	平成三年	平成九年	平成十三年	平成十九年	平成二十三年	平成二十四年	亡くなった年

平成二十四年下半年 寺和尚 日録抄

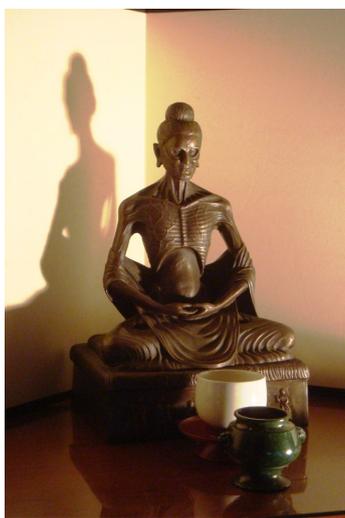
10月	9月	8月	7月
6日	15日	8日	10日
5日	25日	9日～16日	根岸円光寺、施餓鬼法話
27日	24日	21日～22日	七月盆棚経
22日	18日	「禅董会」	下谷了源院、施餓鬼法話
21日	17日	月例役員会	
20日	16日	八月盆棚経	
15日	15日	月例役員会	
25日	14日	佐倉報恩寺、施餓鬼会出頭	
24日	13日	佐倉宝樹院、施餓鬼会出頭	
18日	12日	佐倉円心寺、施餓鬼会出頭	
17日	11日	四街道清久寺、施餓鬼会出頭	
16日	10日	取手長禅寺、施餓鬼・法話	
15日	9日	佐倉円通寺、施餓鬼会出頭	
14日	8日	地藏盆	
9日	7日	スマートフォンコミュニティ写経会	
8日	6日	根岸円光寺、秋彼岸法話	
21日	5日	月例役員会	
22日	4日	幼稚園、入園説明会	
27日	3日	NHK文化センター、坐禅講座	
5日	2日	月例役員会	
6日	1日	幼稚園、運動会	

10月	11月	12月
10日	1日	4日～5日
13日	9日	8日・9日
25日	10日	14日
26日	11日	15日
28日	12日	20日
26日	13日	27日
25日	14日	31日
25日	15日	
26日	16日	
28日	17日	
26日	18日	
25日	19日	
26日	20日	
28日	21日	
26日	22日	
25日	23日	
26日	24日	
28日	25日	
26日	26日	
25日	27日	
26日	28日	
28日	29日	
26日	30日	
25日	31日	

平成二十五年
年間行事予定年

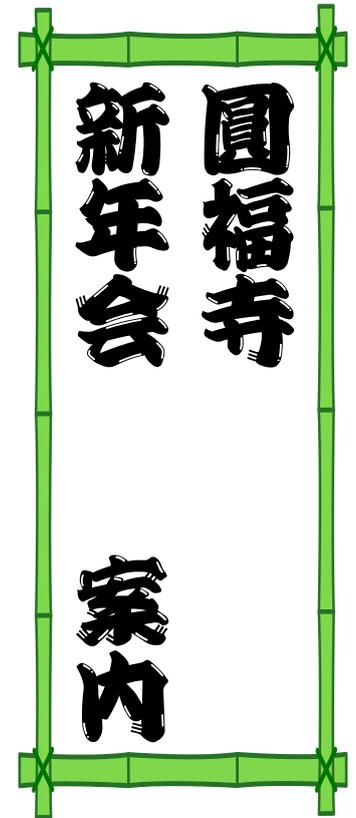
5月	4月	3月	2月	1月
14日 第三十六回 花園会 大会	8日 降誕会(花)	10日 彼岸会法要 17日~23日 春彼岸 30日~ 冬 寺子屋 4月1日 和尚 滑 in 苗場	22日~24日 二巡目 第十一回 四国 遍路 旅 お釈迦様のお亡くなりになった日。涅槃図の掛け軸を掛けて法要をします。 一〇ページのご案内があります。	20日 花園会新年会 21日~3日 新年修正会 仏教興隆・国家安泰・五穀豊穣・檀信徒各家の繁栄などを祈禱する法要をしています。この修正会で祈禱した「般若札」は、寺報・カレンダーなどと一緒に、みなさまにお届けいたします。 二十ページのご案内をご覧ください。

10月	8月	7月
22日 第三十七回 花園会 大会 「禅宗初祖「達磨大師」の命日。」	24日 地藏盆 子どもたちの楽しいお盆の行事です。夜店や野点・ゲーム大会などで盛り上がる夜祭りです。併せて、地藏盆の法要で水子・ペット・人形供養も行います。	6日 初盆 新入檀信徒 施餓鬼会 この日は、初盆のほとけさまと、圓福寺と新しくご縁のできたほとけさまの施餓鬼会をいたします。あらためてご案内を差し上げます。 7日 山門施餓鬼会 11日~16日 七月盆 棚経 七月盆のお宅に棚経にお伺い致します。



釈迦苦行像【圓福寺蔵】

12月	11月	10月
31日 年越 14日 歳末 花園会忘年会 あまさけ・般若湯・年越しそば・福だるま・お守り・新春祈禱など、たくさんお参り下さい。 お釈迦様がお悟りを開かれた日です。	8日 成道会 15日~17日 二巡目 第十二回 四国 遍路 旅 市原別院収穫祭	26日 涅槃精舎毎歳法要 26日 土曜会「涅槃寄席」 永代供養の方々の法要と、生前戒名の授戒会。



一 圓福寺では、毎年、和やかな楽しい新年会をしています。たくさんのお越しをお待ちしております。

圓福寺 縁
、千葉 地域柄、全国各
地 出身 方
。北 北海道、南 九州沖縄
。 決 文句 通
。 石川啄木 訛
上野駅 聞 行
圓福寺 新年会 来 、全国
。 国言葉 聞
。 出 下 氣 輕 寺 新年



平成25年
西暦2013年
仏暦2556年



宮田宗格
河西達雄
福田和夫
平山 実
塩月高泰
菅野光夫
稲田陽英

圓福寺住職
圓福寺花園会

日時 一月二十日(日)
午前十一時 新春 祈祷
正午 新年懇親会
会費 三千円
(祈禱料、守、膳飲
物代 含)
申込 電話 アツ 寺 連
絡下 。